

【国東市議会議長賞】

税金について

国東市立志成学園 九年 森 弘幸

税金とは国民の生活を支えるために国や都道府県・市町村が使うお金です。税金は自分の受けたサービスやものの値段に上乗せされて集められたり、働いて得た収入に応じて集められ国の財源として使われています。消費税をものの値段に上乗せしてはらっているので少し損をしている気になりますが、一人一人から集められた税金によって、公共施設や道路の整備、地震や水害などの自然災害で家や仕事を失った人達を助けるためにも使われています。それ以外でも、今自分たちが毎日使っている教科書も全て税金で作られているなど、自分達の身近な所で税金が使われています。

令和四年度の一般会計予算は百七兆六千億円で、その中の六割にあたる約六十五兆二千億円は租税及び印紙収入で賄われています。自分たちが自動販売機でジュースを買ったり文房具を買った時にはらった数十円、数百円の税金もみんなのお金と集計されて、自分や誰かの役に立っています。もしかしたら、今使っている教科書や毎日通っている通学路も自分が税金として出したお金でできているかもしれません。このようにして自分の手元から出ていったお金が何かの形で自分に戻ってきているんだと実

感することができません。

そして今、日本では少子高齢化が進んできています。そうすることで社会保障の費用が増えていきます。二〇〇〇年には一人の高齢者の負担を三・六人が負担していましたが年々増えていき、一人につき一・三人が負担をするようになるそうです。

今、日本の消費税率は十%で、百円の物を買うと十円の消費税が上乗せさせられ、百十円になります。世界では百五十の国や地域に消費税があり、台湾五%、デンマーク二十五%など大きな差があります。

今回、税について考えて、自分の知らない日常的に受けているサービスを当然と思わず税の使い道をしっかり理解することも大切だと思いました。